

令和 2 年 8 月 26 日
気象庁

太平洋津波警戒・減災システムのための政府間調整グループ（ICG/PTWS）
第 29 回会合・国際津波ワークショップについて（報告）

1. 太平洋津波警戒・減災システムのための政府間調整グループについて

太平洋津波警戒・減災システムのための政府間調整グループ（Intergovernmental Coordination Group for the Pacific Tsunami Warning and Mitigation System: ICG/PTWS）は、昭和 35 年（1960 年）チリ地震津波災害を契機に、太平洋域における津波警戒体制を強化するための国際協力を推進することを目的として、ユネスコ政府間海洋学委員会（UNESCO/IOC）の下に設立された。現在、太平洋沿岸の 46 の国又は地域が加盟している。

ICG/PTWS 会合は 2 年に 1 度開催され、気象庁は、ICG/PTWS 会合において、日本の津波防災に関する多くの知見や経験等を共有し、加盟国の津波被害軽減に貢献している。なお、現在、気象庁地震火山部地震津波監視課国際地震調整官が、ICG/PTWS 副議長を務めている。

さらに、気象庁は、ICG/PTWS の下「北西太平洋津波情報センター（NWPTAC）」を運営しており、北西太平洋における地震を監視し、津波の発生の恐れがある場合には地震や津波に関する情報を ICG/PTWS 加盟の周辺各国に「北西太平洋津波情報」として通知している。同情報は、関係各国の防災機関等の防災活動に活用されている。

2. 第 29 回 ICG/PTWS 会合の日本開催の経緯

第 29 回開催予定の 2021 年は、東北地方太平洋沖地震から 10 年の節目であり、この 10 年間の津波防災のレビューや今後の進展を考えるうえで、日本で次回会合の開催が相応しいと考え、平成 31 年 4 月の ICG/PTWS 第 28 回会合において、次回第 29 回会合の開催年の我が国が開催地として立候補し了承された。

3. 開催概要

東北地方太平洋沖地震から 10 年の節目に、我が国で ICG/PTWS 第 29 回会合を開催することから、それに先立ち、「津波災害軽減に向けての国際津波ワークショップ（仮称）」を開催（1.5 日）し、2011 年東北地方太平洋沖地震以降の技術進歩のレビューと今後 10 年間における太平洋地域での津波被害軽減の展望について議論するとともに、被災地見学（0.5 日）を行う。

第 29 回会合（4 日間）では、毎会合において定例的に行う加盟国の活動報告や太平洋域の津波警報システムのあり方等の政策的事項の検討を行うほか、上記ワークショップの成果報告も行う予定。なお、会合のオープニングでは、

IOC/UNESCO 事務局長、道田 IOC 分科会主査、被災自治体幹部、当庁幹部らの出席（いずれも未調整）のもと、東北地方太平洋沖地震から 10 年として黙祷、挨拶、基調講演等を行う予定。

開催場所は仙台とし、日程は令和 3 年（2021 年）3 月 13 日（土）～18 日（木）を予定。

※開催にあたっては、国内外の新型コロナウイルス感染症の状況にも留意のうえ対応・調整を進める。

ICG/PTWS 第 29 回会合」及び
「津波災害軽減に向けての国際津波ワークショップ（仮称）」

(1) 日程：2021年3月13日（土）～18日（木）

	13日（土）	14日（日）	15日（月）	16日（火）	17日（水）	18日（木）
午前	ワークショップ	ワークショップ	PTWS オープニング PTWS 会合	PTWS 会合	PTWS 会合	PTWS 会合
午後	ワークショップ	被災地視察	PTWS 会合	PTWS 会合	PTWS 会合	PTWS 会合
		PTWS 運営委員会	レセプション			

(2) 場所：

【ワークショップ】東北大学災害科学国際研究所多目的ホール

【PTWS 会合】仙台国際センター

(3) 内容（検討中）：

(ア) 津波災害軽減に向けての国際津波ワークショップ（仮称）【別添1】

- ・防災や減災のほか、この10年間の世界の津波観測技術や津波予測技術の進歩についてレビューする。
- ・より実体験に基づく議論につなげるため、被災自治体等との懇談や講演による東北地方太平洋沖地震の振り返りのセッションを設ける。
- ・ワークショップの成果は、ICG/PTWS 第29回会合に還元する。
- ・成果還元の一例として、2021年はUNESCO/IOCの「国連持続可能な開発のための海洋科学の10年（2021-2030）」が始まる年にあたり、本ワークショップの議論を、PTWS会合での「UN Decadeセッション」の「今後10年間における太平洋地域での津波被害軽減のあり方」の議論につなげる。

(イ) 視察

- ・被災地や遺構等を訪ねて津波被害や復興の状況を視察し、地震津波の意識向上や防災・減災対策の重要性を再確認する。
- ・現地ボランティアや、被災自治体等の説明等も検討。
 - ・仙台市閑上地区を候補に検討中。

(ウ) ICG/PTWS 第29回会合【別添2】

会合はUNESCO/IOC事務局が運営。

- ・前回の会合以降のICG/PTWS活動報告
- ・津波防災・減災に関する加盟国の活動報告
- ・将来の太平洋域の津波警報システムのあり方等の政策的事項の検討
- ・日本開催の特色として、オープニングでは、東北地方太平洋沖地震から10年としての黙祷、来賓挨拶、基調講演等を実施予定。

(エ) 来賓等（想定）

- ・UNESCO/IOC事務局長（UNESCO/IOC事務局で検討中）

- ・気象庁幹部（長官 & 地震火山部長）、他
- ・日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会 IOC 分科会（道田主査）
- ・地元（宮城県 or 仙台市）幹部等

(才) 協力・後援等（想定）

- ・東北大学災害科学国際研究所
- ・宮城県、仙台市
- ・文部科学省、国土交通省、内閣府、消防庁

国際津波ワークショップ（案）

【Title】

International tsunami workshop toward tsunami disaster mitigation
~ Reviews of technical advancements since the tsunami on March 11, 2011 and
perspective of future developments ~

【Objectives of the workshop】

The 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami gave catastrophic disasters to Japan. The Japan Meteorological Agency has improved tsunami prediction and tsunami observation, including the use of submarine tsunami meters. In addition, the United Nations “Decade of Marine Science for Sustainable Development” was adopted in 2017, and the world has begun to actively work on mitigating tsunami disasters. The purpose of the workshop is to review the progress of tsunami observation and tsunami prediction technologies over the past 10 years and to consider the prospects for the next 10 years. Opinions at the workshop will be reported at the following ICG/PTWS meeting.

【Date and Venue】

Date: March 13- 14(Morning), 2021

Venue: International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University

【Sessions】

Opening Session and Keynote Speeches

Session 1: Development of tsunami observation technologies

Session 2: Development of tsunami forecast technologies

Session 3: Tsunami forecast and warning for non-seismic tsunamis

Session 4: Preparedness for tsunami disasters

Session 5: Panel Discussion

【別添 2】

**Twenty-ninth Session of the Intergovernmental Coordination Group for the
Pacific Ocean Tsunami Warning and Mitigation System
(ICG/PTWS-XXIX)**

Sendai, Japan

15-18 March 2021

PROVISIONAL AGENDA

1. WELCOME AND OPENING OF SESSION

2. ORGANIZATION OF THE SESSION

2.1. ADOPTION OF AGENDA

2.2. DESIGNATION OF THE RAPPORTEUR

2.3. CONDUCT OF THE SESSION, TIMETABLE AND DOCUMENTATION

3. REPORT ON INTERSESSIONAL ACTIVITIES

3.1. CHAIRPERSON REPORT

3.2. SECRETARIAT REPORT

3.3. TOWS-WG REPORT

3.4. TSUNAMI SERVICES PROVIDERS REPORT

3.4.1. PTWC

3.4.2. NWPTAC

3.4.3. SCSTAC

3.5. ITIC'S REPORT

3.6. NATIONAL PROGRESS REPORTS

3.7. WORKING GROUPS AND TASK TEAM REPORTS

3.8. REPORT OF PACIFIC WAVE EXERCISE 2020

3.9. STATUS OF PROGRESS IN OTHER ICGS

3.10. REPORTS FROM UN AND NON UN ORGANISATIONS

4. POLICY MATTERS

4.1. PTWS STATUS REPORT

4.2. TSUNAMI READY PILOT PROGRAMME

4.3. REVISED USER'S MANUALS AND SERVICES OVERVIEW DOCUMENT

4.4. PACIFIC WAVE EXERCISE 2021

4.5. CENTRAL AMERICA TSUNAMI ADVISORY CENTER

4.6. PTWS MEDIUM TERM STRATEGY 2022-2030

4.7. WORKING GROUP AND TASK TEAM STRUCTURE

4.8. UN DECADE OF OCEAN SCIENCE FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT

5. PROGRAMME AND BUDGET FOR 2021–2022

6. NEXT SESSION

6.1. CONFIRMATION OF DATE AND PLACE OF ICG/PTWS-XXX

6.2. TARGET DATE FOR ICG/PTWS-XXXI

7. ELECTIONS OF OFFICERS

8. ANY OTHER BUSINESS

9. ADOPTION OF DECISIONS AND RECOMMENDATIONS

10. CLOSURE